

第2回 Workshop for History and Area Studies

報告 金 理花 (本学博士課程)

在日朝鮮人の音楽活動と民族コミュニティ
——ポドゥナムサークル・京都朝鮮歌舞団の事例を中心に

コメント 米谷 匡史 (本学教員)

朝鮮植民地支配からの「解放」後日本に居住することになった在日朝鮮人はおよそ60万人といわれている。在日朝鮮人は異国における生活・生存のための民族コミュニティを全国各地につくり、民族団体はコミュニティの紐帯役となり活動した。そうしたコミュニティでは音楽活動も盛んで、特に青年たちによる音楽サークルは生活の場に欠かさない朝鮮の音楽や踊りをコミュニティ内で提供する重要な役割を果たしていた。また、朝鮮が南北に政治分断して以降、その影響は日本に住む在日朝鮮人、そのコミュニティにも深刻な影響をもたらしたが、音楽活動も等しくその影響を受けながら営まれた。本報告では、特に1960年代京都府の民族コミュニティにおける青年たちの音楽サークル「ポドゥナムサークル」とそれを基盤に後に組織化された京都朝鮮歌舞団の事例から、民族コミュニティにおける音楽活動の在り方と意味を検討したい。

日時：2018年10月2日(火) 17:40～(1時間程度を予定) 場所：海外事情研究所
会議室(研究講義棟427号室)

主催：海外事情研究所、科研費「グローバル化と「共感の共同体」—19世紀後半から20世紀後半を中心に」(研究代表者・伊東剛史)

※申し込み不要 学部生歓迎